

東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

決算補足説明資料

2025年3月期（2024年度） 第2四半期（中間期）決算概要

2024年11月13日



はじめに

当社商品の概要

2025年3月期（2024年度）第2四半期（中間期） 業績概要

1. 今回発表のポイント
2. 連結業績の概要
3. 主な経営指標
4. セグメント別の状況
5. 財務の状況（連結）
6. キャッシュ・フローの状況
7. 剰余金の配当
8. 今後の見通し

参考資料

1. 業績の推移（連結）

当社商品の概要

当社商品の概要

「粉末冶金技術」を駆使し、タングステン製品を軸に多様な特性を持つ商品を展開

1930年代

1950年代

1970年代

2000年～

粉末冶金技術

多様な特性を持つ商品を展開

タングステンに銅や銀を組み合わせ、
通電性や耐アーク性を備えた
合金を開発

熱に強いタングステンの特徴を用いた
電球フィラメントが、当社の出発点

タングステンカーバイドと
コバルト等を組み合わせ、
耐摩耗性や耐腐食性に
優れた合金を開発

超硬合金製品 (タングステンカーバイド合金)

粉末冶金技術を生かし、タングステン以外のチタンや
アルミニウム等からなる緻密なファインセラミックスを開発

セラミックス製品 (セラミックス材料)

セラミックス材料を応用

ハードディスクドライブ(HDD)用
磁気ヘッド基板

NTダイカッター

二軸混練押出機用部材
「MAZELLOY®」

電気・電子製品 (タングステン製品)

金属材料製品 (タングステン製品)



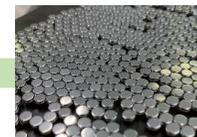
ブレーカー用電気接点



抵抗溶接用電極



プラズマ電極



EVリレー用接点



電球用タングステンワイヤー製品



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品

開発

遠紫外LED

機械部品事業 (他の商品)

耐摩耐食部品
セラミックス精密加工品
ウルトラファインパブル関連製品

産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付
用超硬長尺製品 超硬精密加工品

電機部品事業 (他の商品)

放射線遮蔽材料
バランス用錘
その他電極製品

コピー機や空気清浄機の放電線
自動車のホーン用接点

当社商品の概要

暮らしを支える様々な場面で使用される当社の製品

■ 半導体・電子部品市場

サーバーなどのハードディスクドライブの読み取り装置を支える基板や、「産業のコメ」といわれ、電子デバイスの基本材料となる半導体にも、その製造過程で当社の製品が使われています。



■ 衛生用品機器・医療用部品市場



カテーテル用のブレイディングチューブや電気手術用電極など、医療分野でも当社の製品が使われています。



皆様の健やかな生活を支える衛生用品の製造工程でも、当社の製品が使われています。

■ 自動車部品市場

先端技術を駆使した自動車の部品や、製造工程にも当社の製品が使われています。



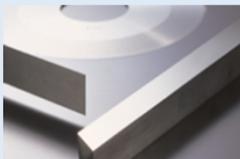
■ 産業用機器・部品市場

より効率的な生産への改善や、安全面、環境面への管理に対し、信頼性の高い部品が求められています。高品質な材料を活かし、当社の様々な製品がこの分野でも活躍しています。



当社商品の概要

4つのターゲット市場に、粉末冶金技術を生かした素材・商品群を提供

ターゲット市場	事業セグメント	
	機械部品事業	電機部品事業
半導体・電子部品市場	 <p>ハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板 世界 No. 1 シェア(当社調べ)</p>	 <p>プラズマ電極</p>
自動車部品市場	 <p>二軸押出機用部材 「MAZELLOY®」新商品 (コンパウンド混錬機用)</p>	 <p>EVリレー用接点</p>  <p>抵抗溶接用電極 (電装部品溶接用)</p>
産業用機器・部品市場	 <p>産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付用超硬長尺製品</p>	 <p>ブレーカー用電気接点</p>
衛生用品機器 ・医療用部品市場	 <p>NTダイカッター 国内No.1・世界No.2シェア(当社調べ) 新素材を開発</p>	 <p>医療関連カテーテル用 タングステンワイヤー製品</p>

2025年3月期（2024年度） 第2四半期（中間期）業績概要

1. 今回発表のポイント

2025年3月期（2024年度）第2四半期（中間期）決算の総括

・当第2四半期の連結業績は、前年同期比で増収減益。

経済環境

・企業の設備投資が堅調であり、雇用・所得環境の改善により個人消費が増加したこと等から、国内の景気は持ち直しの動きがみられる中で推移。
・世界経済も底堅く推移しているものの、不安定な国際情勢、物価上昇、さらには金融政策をめぐる不確実性の高まり等により、先行きは依然として不透明な状況が継続する中で推移。

ターゲット市場の概況

半導体・電子部品市場	：生成 A I の普及によるサーバー需要の増加等により回復傾向で推移。
衛生用品機器・医療用部品市場	：需要の高まりを背景に好調に推移。
産業用機器・部品市場	：企業の設備投資が回復傾向で推移していること等により、堅調に推移。
自動車部品市場	：北米及び中国向けの需要減少が影響し、低調に推移。

1. 今回発表のポイント

今後の見通し

- ・今後の見通し : 企業の設備投資の拡大や個人消費が増加したこと等により、日本経済は緩やかな回復傾向にあるが、地政学リスクの高まり等による物価高への影響や中国等の海外経済の減速の懸念もあり、先行きは依然として不透明な中で推移するものと思われる。
 - ・半導体・電子部品市場 : ハードディスク（HDD）用磁気ヘッド基板（機械部品事業）が好調を継続すると見込む。
 - ・衛生用品機器・医療用部品市場 : 医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品（電機部品事業）が堅調に推移すると見込んでいるものの、NTダイカッター（機械部品事業）が当連結会計年度下期は受注品の納期の谷間もあり、上期業績より弱含みで推移すると見込む。
 - ・産業用機器・部品市場 : 二軸混錬押出機用の金属部品（機械部品事業）の需要が一服すると見込む。

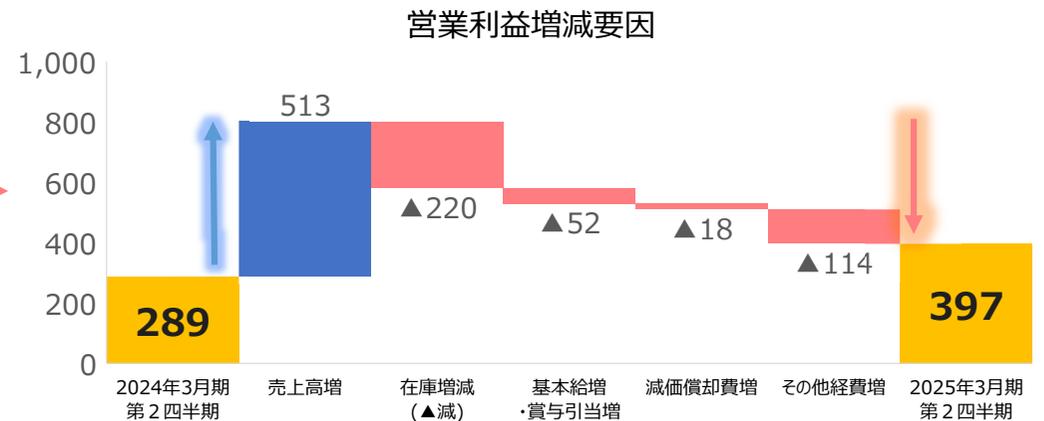


当連結会計年度下期の業績は、上期業績より勢いを欠く中で推移するものと見込む。

- ・業績予想 : 上期業績が予想より上振れで推移したものの、下期業績は勢いを欠くことから、通期見通しは概ね期初に想定した範囲内で推移すると見込んでおり、2024年5月9日に公表した予想値から変更はなし。

2. 連結業績の概要

	2024年3月期 第2四半期 (中間期)	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	(単位：百万円)	
			増減額	増減率 (%)
売上高	5,669	6,309	640	11.3
営業利益	289	397	107	37.2
経常利益	457	523	65	14.3
親会社株主に帰属する 中間純利益	361	354	△6	△1.9



連結売上高	63億9百万円 (前年同四半期比 11.3%増)	<ul style="list-style-type: none"> ・注力商品であるハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板や、N Tダイカッターが回復傾向にある中で、期初に設定した業績見込みを上回りながら推移し、2024年9月26日付で当第2四半期（累計）連結業績予想数値を上方に修正。 ・「日本タングステングループ2024中期経営計画」の目標指標の達成は厳しいが、新商品の積極的なPR活動や顧客からのフィードバックに基づく機能面の改善に取り組んでおり、既存商品においても、シェア拡大に向けた顧客への新たな提案や、生産体制の強化に取り組む。 半導体・電子部品市場：生成AIの普及によるサーバー需要の増加等により回復傾向で推移。 衛生用品機器・医療用部品市場：需要の高まりを背景に好調に推移。 産業用機器・部品市場：企業の設備投資が回復傾向で推移していること等により、堅調に推移。 自動車部品市場：北米及び中国向けの需要減少が影響し、低調に推移。 ・上記の結果、当社グループの売上高は、前年同期比11.3%増加。
営業利益	3億9千7百万円 (同 37.2%増)	<ul style="list-style-type: none"> ・海外連結子会社の業績が低迷したものの、注力商品を中心に売上高が増加したことによる操業度の改善等により、前年同期比37.2%増加。
経常利益	5億2千3百万円 (同 14.3%増)	<ul style="list-style-type: none"> ・関連会社の持分法による投資利益が減少したことや、円高進行による為替差損を計上したこと等により営業外損益が悪化したものの、営業利益が増加したことにより、前年同期比14.3%増加。
親会社株主に帰属する中間純利益	3億5千4百万円 (同 1.9%減)	<ul style="list-style-type: none"> ・前年同期に特別利益を計上したこと等により、前年同期比1.9%減少。

3. 主な経営指標

	2021年3月期 第2四半期（中間期）	2022年3月期 第2四半期（中間期）	2023年3月期 第2四半期（中間期）	2024年3月期 第2四半期（中間期）	2025年3月期 第2四半期（中間期）
売上高営業利益率	△0.2	8.2	9.1	5.1	6.3
自己資本中間純利益率（ROE）	1.5	4.4	4.8	3.2	3.0
総資産経常利益率（ROA）	0.9	4.0	4.6	2.7	3.0
1株当中間純利益	30.80	92.18	107.26	74.71	73.21

➤ 中間純利益が前年同期比で減益となったことにより、ROE及び1株当中間純利益は低下。

（注）2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2021年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり中間純利益を算定しております。

4. セグメント別の状況

■ セグメント業績の概要

(単位：百万円)

対前年比

	2024年3月期 第2四半期 (中間期)	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	対前年比	
			増減額	増減率 (%)
機械部品事業				
売上高	3,195	3,721	525	16.5
営業利益	322	483	161	50.0
電機部品事業				
売上高	2,492	2,607	115	4.7
営業利益	251	217	△33	△13.5
調整額				
売上高	△18	△19	△0	-
営業利益	△284	△303	△19	-
全社				
売上高	5,669	6,309	640	11.3
営業利益	289	397	107	37.2

機械部品事業



	2024年3月期 第2四半期 (中間期)	2025年3月期 第2四半期 (中間期)
売上構成比	56.2%	58.8%
営業利益率	10.1%	13.0%

前年同四半期比

- ・売上高は、16.5%の増収
- ・営業利益は、50.0%の増益

四半期推移

- ・売上高は、半導体・電子部品市場や衛生用品機器・医療用部品市場が回復傾向にあり、20億円超えで推移
- ・営業利益は、上記市場の注力商品の増収効果により増益で推移

電機部品事業



	2024年3月期 第2四半期 (中間期)	2025年3月期 第2四半期 (中間期)
売上構成比	43.8%	41.2%
営業利益率	10.1%	8.3%

前年同四半期比

- ・売上高は、4.7%の増収
- ・営業利益は、13.5%の減益

四半期推移

- ・売上高は、減収傾向に歯止めがかかり、上昇基調に転じた
- ・営業利益は、一部の注力商品の減少や中国市場での低迷もあり、収益率が低下

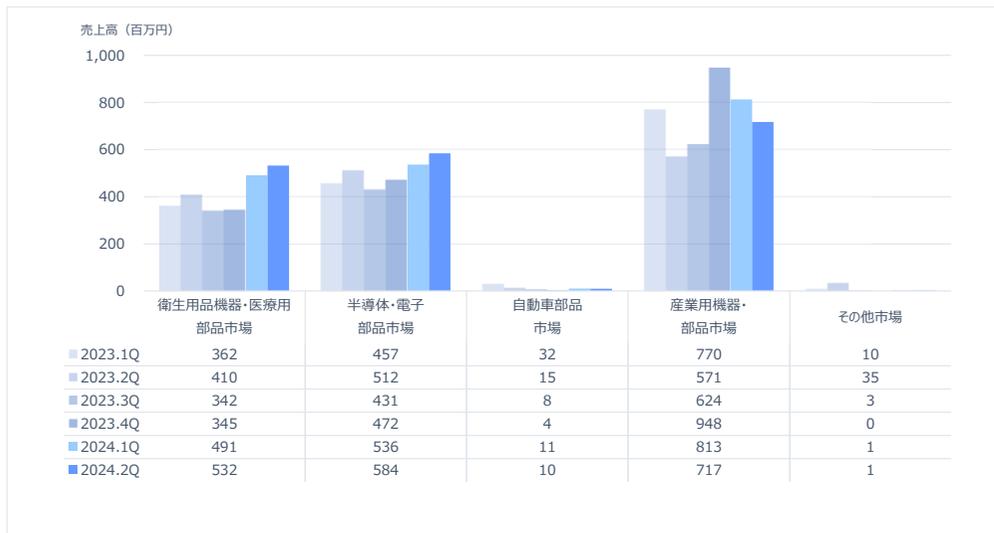
機械部品事業は対前年同期比で増収増益
電機部品事業は対前年同期比で増収減益

4. セグメント別の状況

機械部品事業

NIPPON TUNGSTEN CO.,LTD. 13

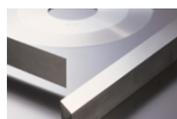
■ ターゲット市場別業績・主要商品の状況



NTダイカッター



HDD用
磁気ヘッド基板



二軸混錬押出
機用の金属部品

製鉄所向け
の耐摩耗部材

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年同期比)

【半導体・電子部品市場】

情報関連機器のハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板

データセンター等で使用される大容量HDDの需要が、当連結会計年度第1四半期の回復傾向が継続していること等により、増収。

【衛生用品機器・医療用部品市場】

NTダイカッター

新材料の投入や新構造のロータリーカッターユニットによる販売促進に取り組んだ結果、中国市場停滞の影響はあるものの他地域の需要が好調に推移していること等により、増収。

【産業用機器・部品市場】

二軸混錬押出機用の金属部品

二軸混錬押出機用の金属部品が、前連結会計年度下期から当連結会計年度第1四半期にかけて、まとまった受注を獲得したこと等により、増収

製鉄所向けの耐摩耗部材

安定した需要の中で推移しているものの、特に前年同四半期に需要が集中していたこと等により、減収

4. セグメント別の状況

電機部品事業

売上高（百万円）



医療関連カテーテル用
タングステンワイヤー製品



EVリレー用接点



ブレーカー用
電気接点



抵抗溶接用電極

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

ターゲット市場の主要な商品の状況（前年同期比）

【自動車部品市場】

EVリレー用接点

前連結会計年度後半の落ち込みから回復傾向にあるものの、北米向けでは一部のエンドユーザーの自動車減産の影響等により、減収。

電装部品溶接用の抵抗溶接用電極

中国向けで顧客の需要が減少したことにより、減収。

【産業用機器・部品市場】

産業用設備向けのブレーカー用電気接点

在庫調整の解消が進んでおり増収。

【衛生用品機器・医療用部品市場】

医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品

北米地域向けで新規顧客を獲得するなど好調に推移し、また、東南アジア地域向けも、在庫調整が解消したことで堅調に推移し、増収。

5. 財務の状況（連結）

(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期 第2四半期（中間期）	対前年比 増減額
総資産	17,137	17,558	420
負債	5,024	5,250	225
純資産	12,113	12,308	195

主な経営指標

	2024年3月期	2025年3月期 第2四半期（中間期）
自己資本比率（%）	70.6	70.0
1株当たり純資産（円）	2,498.79	2,535.87

主な増加要因 (単位:百万円)

主な減少要因 (単位:百万円)

総資産 175億5千8百万円 (前連結会計年度末比4億2千万円増)	棚卸資産 +217 有形固定資産 +260	—
負債 52億5千万円 (同2億2千5百万円増)	賞与引当金 +124 設備関係未払金 +213	仕入債務 △166
純資産 123億8百万円 (同1億9千5百万円増)	利益剰余金 +233	その他有価証券評価差額金 △42

6. キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2024年3月期 第2四半期 (中間期)	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	対前年比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	43	555	511 (収入増)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 381	△ 367	13 (支出減)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 162	△ 130	32 (支出減)
現金及び現金同等物に係る換算差額	44	△ 17	△62
現金及び現金同等物の期末残高	4,056	3,518	△538

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により獲得した資金 5億5千5百万円 (前年同期比 5億1千1百万円の収入増)
 ▶主に売上債権の増減額及び賞与引当金が増加したことによる

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金 3億6千7百万円 (同 1千3百万円の支出減)
 ▶主に有形固定資産の売却による収入が減少したものの、有形固定資産の取得による支出が減少したことによる

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により支出した資金 1億3千万円 (同 3千2百万円の支出減)
 ▶主に配当金の支払が減少したことによる

7. 剰余金の配当

剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は株主の皆様への利益還元について、新製品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な企業財務体質の強化等を総合的に勘案しつつ、原則として、年間の1株あたり配当額50円を下限として、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安とした安定的・継続的な配当を実施するよう努めます。

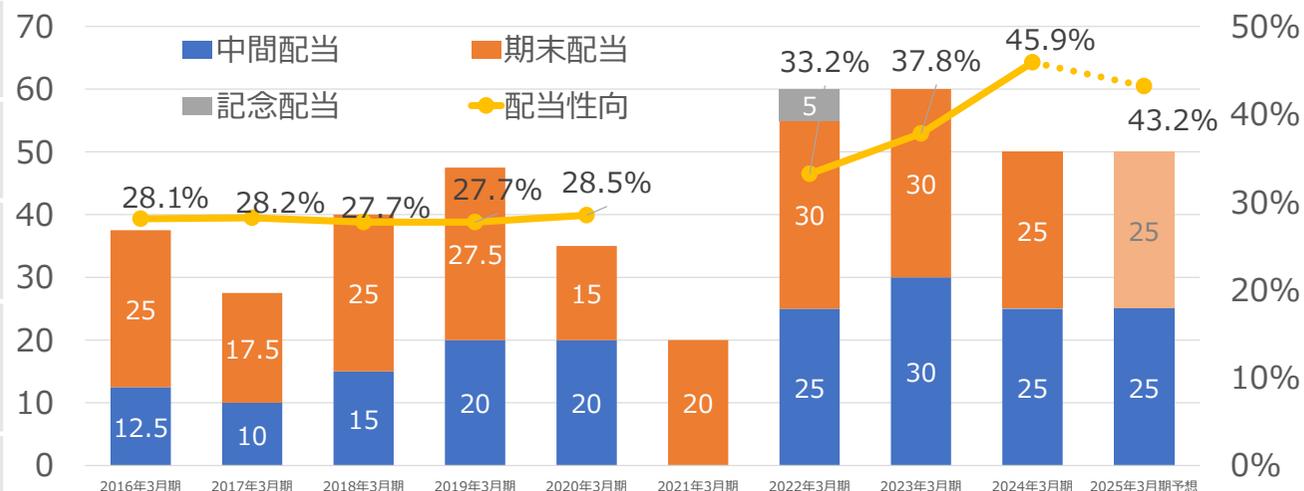
また、1株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めます。

なお、著しい経営環境の変化などの特殊要因により、親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、配当金の見直しを検討するものとします。

剰余金の配当（中間）

当期の中間配当金は、配当方針を勘案した上で、2024年5月9日に公表した中間配当金予想のとおり、**中間配当金 1株当たり25円**とする。なお、中間配当金の支払開始日は2024年12月6日とする。

基準日	2024年9月30日
1株あたり配当金	25円00銭
配当金総額	1億2千1百万円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2024年12月6日
配当原資	利益剰余金



(注) 1 2021年3月期は当期純損失であったため配当性向は該当ありません。
2 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2016年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額を算定しております。

8. 今後の見通し

今後の見通し

・今後の見通し : 企業の設備投資の拡大や個人消費が増加したこと等により、日本経済は緩やかな回復傾向にあるが、地政学リスクの高まり等による物価高への影響や中国等の海外経済の減速の懸念もあり、先行きは依然として不透明な中で推移するものと思われる。

- ・半導体・電子部品市場 : ハードディスク（HDD）用磁気ヘッド基板（機械部品事業）が好調を継続すると見込む。
- ・衛生用品機器・医療用部品市場 : 医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品（電機部品事業）が堅調に推移すると見込んでいるものの、NTダイカッター（機械部品事業）が当連結会計年度下期は受注品の納期の谷間もあり、上期業績より弱含みで推移すると見込む。
- ・産業用機器・部品市場 : 二軸混錬押出機用の金属部品（機械部品事業）の需要が一服すると見込む。



当連結会計年度下期の業績は、上期業績より勢いを欠く中で推移するものと見込む。

・業績予想 : 上期業績が予想より上振れで推移したものの、下期業績は勢いを欠くことから、通期見通しは概ね期初に想定した範囲内で推移すると見込んでおり、2024年5月9日に公表した予想値から変更はなし。



参考資料

1. 業績の推移（連結）

経営成績（連結）

（単位：百万円）

区分	2021年3月期 第2四半期（中間期）	2022年3月期 第2四半期（中間期）	2023年3月期 第2四半期（中間期）	2024年3月期 第2四半期（中間期）	2025年3月期 第2四半期（中間期）
売上高	4,705	5,865	6,611	5,669	6,309
営業利益	△7	483	602	289	397
経常利益	136	619	756	457	523
親会社株主に帰属する中間純利益	148	444	518	361	354
純資産	10,006	10,357	11,226	11,748	12,308
総資産	15,182	15,629	16,953	17,239	17,558

経営指標（連結）

区分	2021年3月期 第2四半期（中間期）	2022年3月期 第2四半期（中間期）	2023年3月期 第2四半期（中間期）	2024年3月期 第2四半期（中間期）	2025年3月期 第2四半期（中間期）
売上高営業利益率（%）	△ 0.2	8.2	9.1	5.1	6.3
自己資本中間純利益率（ROE）（%）	1.5	4.4	4.8	3.2	3.0
自己資本比率（%）	65.8	66.2	66.2	68.1	70.0
1株当たり純資産（BPS）（円）	2,074.88	2,144.92	2,318.81	2,423.26	2,535.87
1株当たり中間純利益（EPS）（円）	30.80	92.18	107.26	74.71	73.21
総資産経常利益率（ROA）（%）	0.9	4.0	4.6	2.7	3.0

（注）2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2021年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり純資産」及び「1株当たり中間純利益」を算定しております。

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。